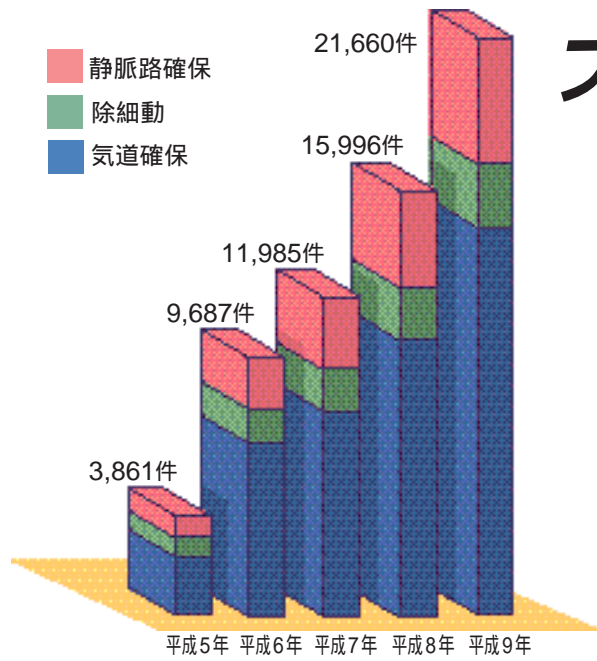


## プレホスピタルが 救命救急のカギ

### 救急救命士制度の実施

#### 救命士による特定3行為の処置実績



(消防庁資料：救急業務高度化の現況)

アメリカでは心筋梗塞患者が年間九〇万人といわれており、そのうち二万五千人が亡くなっています。さらに、死亡した人たちの半分以上である十二万五千人が病院到着前に亡くなっています。

日本では心筋梗塞患者の正確な数字ははっきりとつかめていませんが、アメリカと同様にかかりの方が病院到着前に亡くなっています。

救急救命士は点滴に必要な静脈確保、心肺停止時に行う除細動、気道確保のためのラリソールマスクなど特定の医療行為が認められています。救急救命士の特定行為の実施状況を見ると年々拡大しており、この制度により救われる命が増えていることがわかります。

現在、全国の救急隊に救急救命士が少なくとも一名配置できるように養成が行われています。

家族や職場などで突然、胸痛を訴えたり、倒れた人が出た場合は、直ぐに一九番に電話して救急車を呼ぶことです。

倒れて意識のない人の中に、心臓の鼓動もなく呼吸もしていない状態（心肺停止状態）の場合があります。

心肺停止のまま放置した状態が三分以上続くと酸素不足のため脳に障害を受けて機能が回復できなくなってしまう。現在、救急車が現場に到着する平均時間は六分六秒です。その前にそこにいる人が心肺蘇生術などの応急処置を行うことができるか助かる可能性が高くなります。

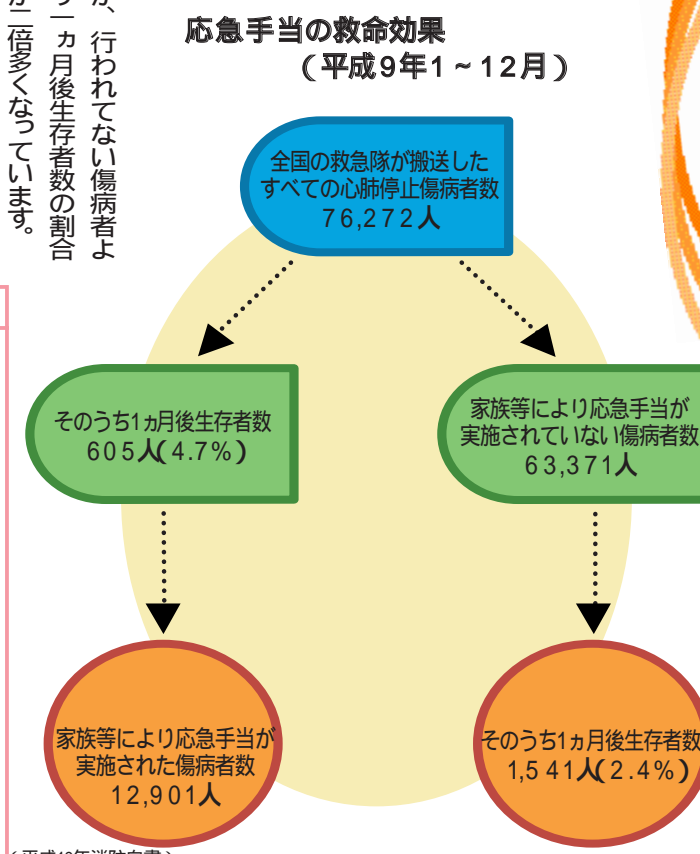
平成九年の応急手当の救命効果では、応急手当が行われていた傷病者のほうが行われていない傷病者より一か月後生存者数の割合が二倍多くなっています。

心肺蘇生術などの応急手当は、消防庁が中心になって普及啓蒙活動を行っており、また運転免許取得時に習得しなければならぬことになっています。機会を見つけて身につけるようにしてください。

**日本心臓財団より**

日本心臓財団は、わが国三大死因のうちの心臓病と脳卒中の制圧を目指して、一九七一年に発足いたしました。当財団は、研究に対する助成や予防啓蒙、また世界心臓連合加盟団体としての諸活動を通じて、心臓血管病の予防・制圧に努めております。当財団は皆様の「寄付」により運営されています。ご支援の協力をお願い申し上げます。

財団法人日本心臓財団  
〒一〇〇五 東京都千代田区丸の内三丁目一四一 新国際ビル  
電話 三三三三一一八  
ホームページ <http://www.jhf.or.jp/>



## 突然の胸痛に襲われたとき

### 十五分以上続いたら救急車を

救急医療というと交通事故（脳疾患、心疾患）です。故や災害、ケガなどと思いきや、浮かべる人が多いかもしれせん。しかし、平成九年の救急車の出動件数をみると急病が五四・一％と高く、交通事故は一八・一％となっています。

急病の中でも約四分の一を占めるのが循環器系疾患胸痛、胸を締めつけられる

ような苦しさに襲われるのが狭心症、心筋梗塞です。狭心症の場合は数分で痛みはおさまりますが、心筋梗塞の場合は胸痛がおさまらず持続するのが特徴です。激しい胸痛が十五分以上続くと救急車を呼ぶ必要があります。

不整脈があります。危険な不整脈のある患者さんは、症状によりペースメーカーや植え込み型除細動器を装着して、致命的な不整脈の発生をさけるようにしています。

心不全は心疾患、虚血性心疾患、心筋症、弁膜症などにより心機能が低下して、呼吸困難や浮腫などを起こすものです。急性心不全を起こすと救命救急処置が必要となります。

心筋梗塞の場合、発症後の時間の経過とともに心臓に不可逆性の大きなダメージを与えます。ですから、できるだけ早く治療することが大切です。六時間までがゴールデンタイムです。

心筋梗塞は、心臓に酸素と栄養を送っている冠動脈の内腔が動脈硬化の進行に

よって狭くなり、さらに狭窄部分が詰まると血流が途絶え、その先で心筋が壊死してしまつ病気が起きます。心筋梗塞の治療は再灌流療法といって、詰まっている血管を通す治療が行われます。それには薬剤を静脈に注射して詰まった血栓を

溶かす方法や、PTCA（経皮的冠動脈再建術）といって血管に細い管を入れて詰まった箇所を風船でふくらませて開く方法があります。どちらも心筋梗塞発症から早ければ早いほど治療後の回復が早いことがわかっています。

## 心筋梗塞治療は発症から六時間以内

